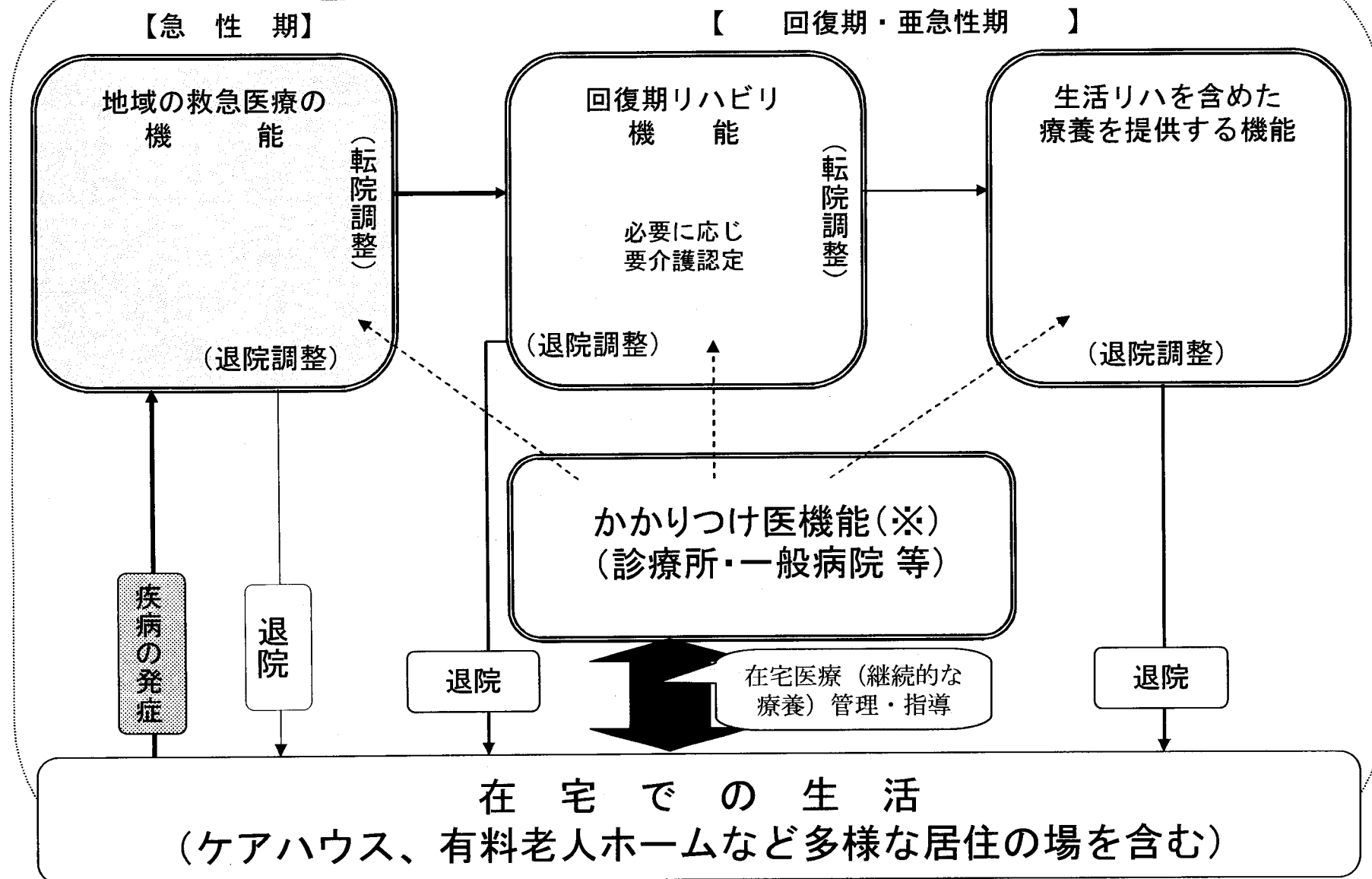


# 資料編

# 医療機能の明確化や機能分化・ 連携・情報開示・ITの活用

- ・脳卒中の連携体制
- ・地域連携クリティカルパス
- ・医療機能の情報公表
- ・IT化の推進
- ・ナショナルセンターの役割

# 脳卒中の場合の医療連携体制のイメージ



※ 急性期、回復期、療養期等各機能を担う医療機関それぞれにかかりつけ医がいることも考えられるが、ここでは、身近な地域で日常的な医療を受けたり、あるいは健康の相談等ができる医師として、患者の病状に応じた適切な医療機関を紹介することをはじめ、常に患者の立場に立った重要な役割を担う医師をイメージしている。

# 医療連携の取組(青森県)

## 青森県地域連携パス標準化モデル開発・普及事業

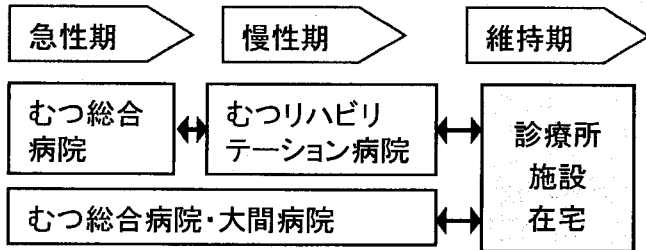
- ・ 開始時期:平成17年度から
- ・ 対象地域:八戸圏域と下北圏域
- ・ 対象疾患:脳血管疾患
- ・ 入院患者が退院後に円滑に地域での生活に戻り、早期に社会復帰できる仕組みづくり
- ・ 適時適切なサービスを切れ目なく提供できるようにするために、筋道(パス)を保健医療福祉関係者と患者家族で共有し活用することにより、適切なサービスが提供できるようにするもの

### 参加医療機関数

	病院	診療所
八戸圏域	17	34
下北圏域	4	11

地域の多くの医療機関が参加。介護施設等も参加

### 下北圏域の運用



脳梗塞(患者用) ハターン! 60日パス  
むつ総合病院・大間病院→むつリハビリテーション病院→在宅

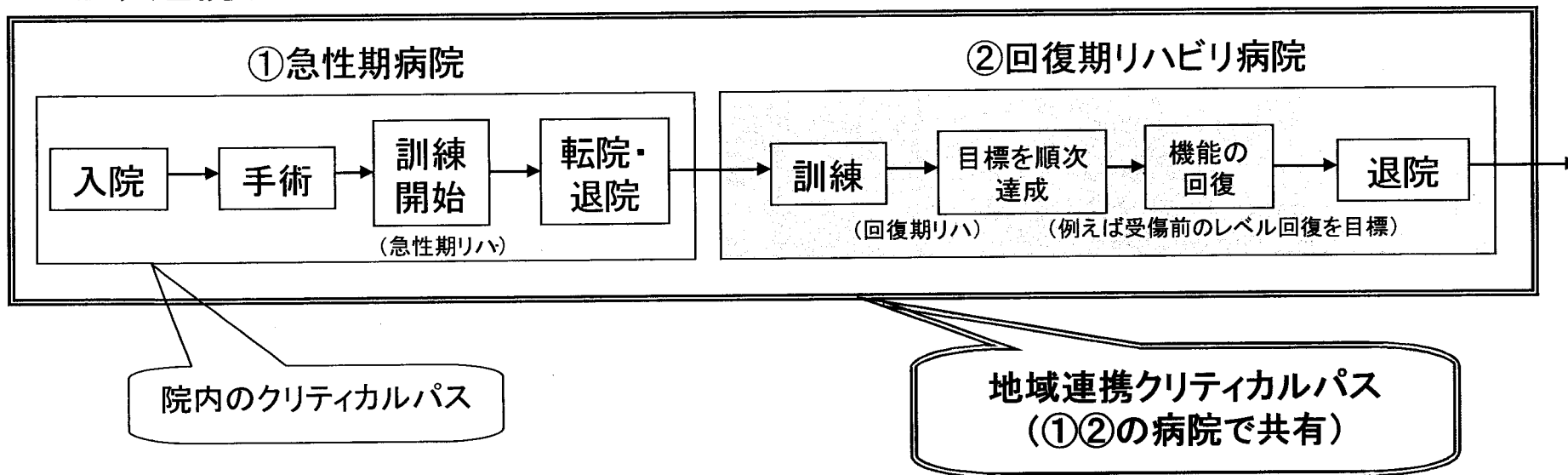
項目名	急性期	慢性期	維持期
施設	急性期: 大間病院	慢性期: 大間病院	維持期: 大間病院
目的	① 脳梗塞の発症を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。
内容	① 脳梗塞の発症を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。
医療の連携	① 脳梗塞の発症を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。
生活	① 脳梗塞の発症を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。
費用	① 脳梗塞の発症を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。
備考	① 脳梗塞の発症を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。
連絡	① 脳梗塞の発症を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。
本人・家族への説明	① 脳梗塞の発症を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。
医師	① 脳梗塞の発症を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。
薬剤師	① 脳梗塞の発症を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。
看護師	① 脳梗塞の発症を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。
理学療法士	① 脳梗塞の発症を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。
作業療法士	① 脳梗塞の発症を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。
言語聴覚士	① 脳梗塞の発症を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。
介護士	① 脳梗塞の発症を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。
その他	① 脳梗塞の発症を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。	① 脳梗塞の再発を予防する。



・ 状態に応じて予定が変更になることもありますので、ご不明な点は各窓口にご相談ください。

地域連携パス(下北圏域)

# 地域連携クリティカルパスのイメージ



## 熊本市での取組実績

①急性期病院における平均在院日数の変化

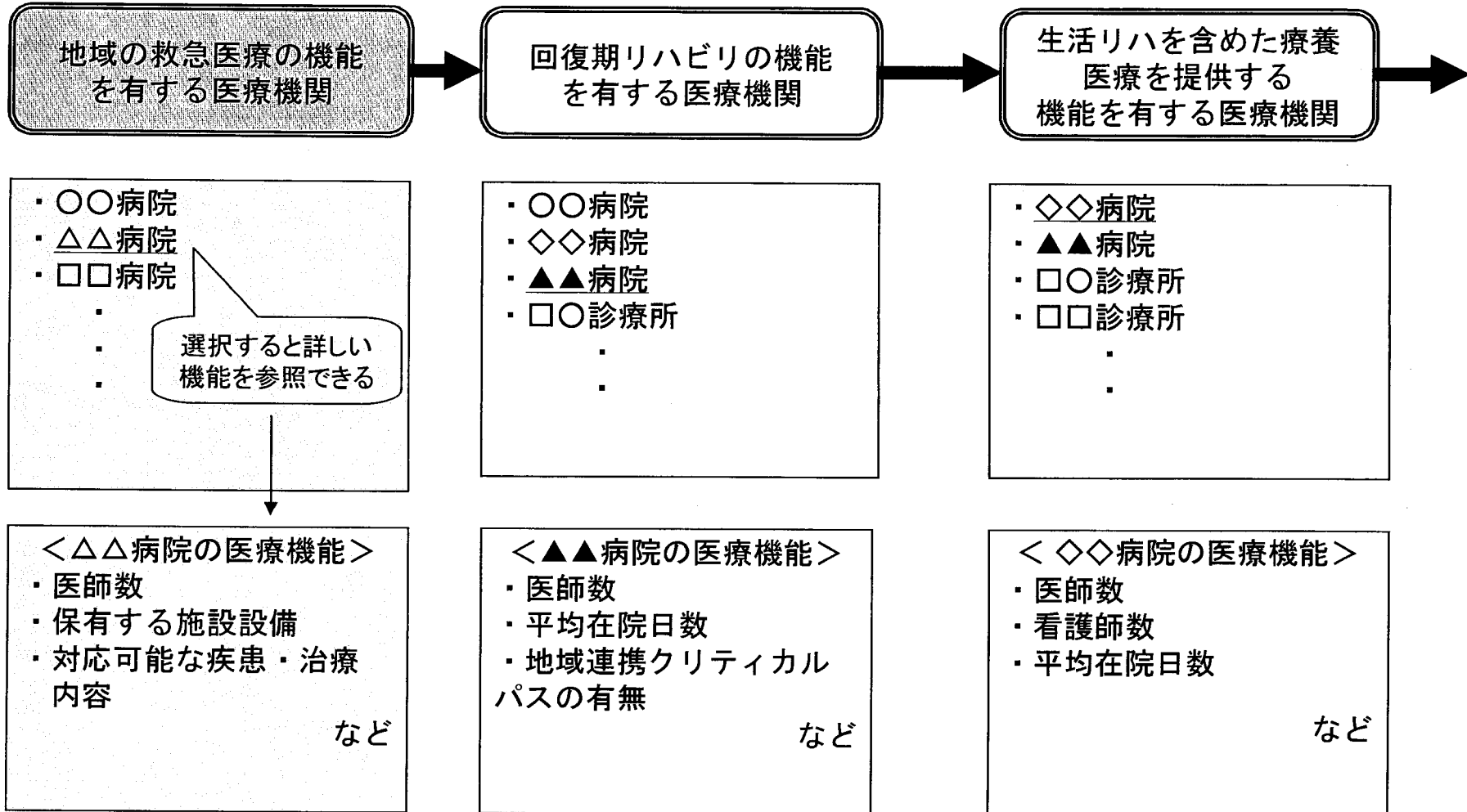
	事例数	平均在院日数	(A)に対する減少率
連携パス導入前 (H11.1~12)	72例	28.5日 (A)	—
連携パス導入後 (H13.1~8)	77例	19.6日	約31%減
連携パス導入後 (H15.1~H17.1)	423例	15.4日	約46%減

②連携先病院(ある回復期リハビリテーション施設)における平均在院日数の変化

	事例数	平均在院日数	(B)に対する減少率
連携パス導入前 (H15)	55例	90.8日 (B)	—
連携パス導入後 (H16)	53例	67.0日	約26%減

# 医療及び医療機関に関する情報の公表

- 各地域の医療機関の機能連携を具体的に明らかにした医療計画を十分住民に周知します。
- それぞれの医療機関の機能を都道府県が整理し、住民にわかりやすく公表するようにします。



# 医療等におけるIT化の推進

## ITに対する基本的考え方

- ITは、医療等のサービスの質の向上と効率化や、これらサービスに係る情報収集・分析・評価（PDCAサイクル）に必要となる重要な基盤
- 医療等におけるIT化を重点的に推進するため、「医療・健康・介護・福祉分野の情報化グランドデザイン（ITグランドデザイン）」を策定（平成19年3月27日）

## IT化の具体的内容

### ○健診・診療情報、レセプトデータ等の収集分析

- ・平成20年度から開始される保険者実施の健診・保健指導において、健診情報の収集を開始。平成21年度以後、疫学的利用方を検討
- ・平成20年度にレセプトデータの全国的な収集・分析体制を構築し、平成21年度から段階的に収集分析を開始

### ○医療機関の情報化、情報連携の推進

- ・医療用語・コード等の標準化（継続中）、医療情報システムの相互運用性の確保（平成19年度～）、ネットワークセキュリティ要件の明確化など情報連携のための環境整備

### ○レセプトオンライン化の推進

- ・大規模医療機関・薬局を中心に、レセプトの電子媒体化が進んでおり、平成22年4月には8割以上のレセプトが、また、平成23年4月には、原則、全てのレセプトがオンライン化

### ○健康ITカード（仮称）の導入に向けた検討

- ・平成19年度中に結論 等

※ 個人情報の保護には万全を期す

## ITの活用により期待される効果

### ○生涯にわたる健康情報の効率的な利活用

- ・健診・診療情報等を電子的に入手・管理し、個人が日常の健康管理に活用
- ・個人が健診・診療情報等を医療機関に提供し、適切な医療を受ける

### ○医療機関等のネットワーク化・電子的情報連携

- ・利用者に係る情報（持病、アレルギー、薬歴・検査歴、急変時への対応等）の伝達による適切な医療の確保

- ・診療画像、検査情報等の円滑な情報交換→診療において活用
- ・遠隔医療の推進
- ・専門医への紹介、セカンドオピニオンへの円滑化
- ・重複・不要検査等の是正

### ○健康情報の統計的・疫学的分析によるEBMの推進

### ○保険者による効果的な保健指導

### ○医療機関の事務の効率化・安全の確保

- ・カルテ保存や運搬の効率化 ・誤記・誤読防止 等

### ○保険者や審査支払機関の医療保険事務コストの抑制

### ○社会保障給付の重複調整

等

目指すべき将来の姿

# 国立高度専門医療センター(ナショナルセンター)を 中核に取り組む主な医療課題

国立がんセンター  
**がん**  
総患者数128万人  
年間33万人が死亡

国立循環器病センター  
**循環器病**  
総患者数1034万人  
年間33万人が死亡

国立精神・神経センター  
**精神・神経疾患**  
精神・神経疾患総患者数 347万人  
年間自殺者数 3万人

医療・研究  
・遺伝子診断  
・分子標的治療開発  
・難治性がん治療技術開発

医療・研究  
・再生医療・オーダーメイド医療  
・完全埋め込み型人工心臓開発

医療・研究  
・抗精神疾患薬物療法の開発  
・筋ジス遺伝子治療実用化

人材育成・情報発信  
・がん診療連携拠点病院  
・侵襲性の低い診断・治療技術の均てん

人材育成・情報発信  
・治療・リハビリ・社会復帰のクリティカルパス構築  
・精度の高い診断・治療法の普及

人材育成・情報発信  
・早期診断・早期治療の普及(7万人社会復帰)  
・自殺予防情報の発信

## 我が国が対応すべき疾患群

医療・研究  
・新型インフルエンザの解明  
・代謝症候群へのテーラーメイド医療の開発

医療・研究  
・不妊症・周産期異常の究明  
・胎児手術・遺伝子治療

医療・研究  
・アルツハイマーワクチン療法の確立  
・骨粗鬆症の早期発見と治療薬の開発  
・健康寿命の延伸と看取り技法の開発

人材育成・情報発信  
・最先端のエイズ医療情報の提供  
・開発途上国への専門家の養成・派遣  
・患者負担の少ない糖尿病治療法の普及

人材育成・情報発信  
・救急にも対応できる小児科総合診療医の養成  
・妊婦・子どものための医薬品安全情報発信

人材育成・情報発信  
・介護予防の普及  
・在宅医療の確立(療養病床38→15万床)

新型インフルエンザ危機  
HIV感染者累計1万2千人  
糖尿病予備軍 1620万人(推計)  
**感染症及び糖尿病等**  
国立国際医療センター

年間周産期死亡数 5千人  
年間未成年者の事故死 1400人  
**成育医療**  
国立成育医療センター

変形性骨関節症1000万人(推計)  
認知症患者数 170万人  
**長寿医療**  
国立長寿医療センター